

一般地域の景観形成基準に対する措置状況説明書（建築物の建築等）

<住居系市街地>

<当該行為における景観に関する考え方> 記載欄
 学習院大学キャンパス内の周囲の建物と調和する外観とし、庇で建物を分節することで周囲への圧迫感を抑える計画とした。

配置	○道路などの公共空間と連続したオープンスペースの確保など、公共空間との関係に配慮する。
	記載欄 キャンパス内であるため、道路などの公共空間と連続した箇所はない。
	○壁面の位置の連続性や適切な隣棟間隔の確保など、周辺の街並みに配慮する。
	記載欄 キャンパス中央に位置し、敷地境界線より十分に奥まった位置にあり、街並みには大きく影響を与えない計画である。 敷地周辺から見える建物上部は周囲に圧迫感を与えない庇により分節する計画とした。
	○敷地内に残すべき景観資源（遺構、樹木、池、湧水等）がある場合には、これを生かした計画とする。
	記載欄 健全な樹木は極力残し、倒木の危険性のあるものは伐採し、適切な緑化計画を行った。
高さ・規模	○周辺からの見え方に配慮する。
	記載欄 周囲から最も見えやすい軒裏を明るく、空に溶け込む色とした。
	○建築物の分節化や高層部の後退などにより、圧迫感の軽減に配慮する。
	記載欄 庇により分節をすることで周囲に圧迫感を与えないよう配慮した。
形態・意匠・色彩	○建築物単体だけでなく、周辺の建築物や景観資源等（公園・緑地、並木、モニュメント等）との調和に配慮する。
	記載欄 周囲の緑に溶け込むよう低層部はガラスを多用する計画とした。
	○歴史的な建造物や史跡など景観資源周辺では、景観資源との調和や活用に配慮する。
	記載欄 隣接する大学図書館との色合いをそろえ、統一感のある景観とした。

	○色彩は、「色彩基準」に適合するとともに、周囲の建物から突出せず、周辺との調和に配慮する。
	記載欄 落ち着いた配色とし、周囲との調和に配慮した。
	○外壁は、周辺の景観との調和に配慮した素材を活用する。
	記載欄 光沢のない自然な塗装仕上げとした。
	○坂道や緑道等となっている河川沿いなど、地形の変化がある場所では、その変化を建築物等のデザインに生かすよう工夫する。
	記載欄 地形の変化は特にならない。
	○附帯する建築設備等は、設置場所や目隠しなどの工夫により、周囲からの見え方に配慮する。
	記載欄 正面大階段下設備スペース、建物東側設備スペース及び屋上設備スペースはルーバーで覆うことで周囲からの見え方に配慮した。
公開 空地・ 外構・ 緑化等	○外構計画は、隣接する敷地や道路など周囲の街並みとの調和に配慮する。
	記載欄 外構計画は樹木を極力残しキャンパス全体の緑化計画と調和するよう計画した。
	○周辺のみどりとの連続性を考慮し、敷地や建築物を緑化する。
	記載欄 キャンパス内の緑が連続するよう、中庭を整備し、建物周辺にも植栽を計画した。
	○緑化にあたり、樹種の選定や樹木の配置等は継続的な維持管理が可能な計画とする。
	記載欄 継続して維持管理ができる適切な高木・低木を計画した。
	○駐車場・駐輪場を設置する場合は、緑化の工夫により、道路や隣地からの見え方に配慮する。
記載欄 駐車場・駐輪場はない。	

<上記以外で特に景観に配慮した事項> 記載欄